

第 76 回理事会議事録

1. 日 時：2021 年 12 月 17 日（金）18 時 30 分～19 時 40 分
2. 議決方法：オンライン会議システム Zoom を使用した
3. 議事参加者：【理事 9 名】 鳩山勝郎、浅越ことみ、伊藤直彦、久保公人、齋藤陽子、寺本直志、橋本公二、山田和彦、吉田正
【監事 2 名】 関口修、正村祐一
【事務局 3 名】 高野英樹事務局長、大政哲人国際交流事業部長、仲村篤志競技会事業部長
(理事現在数：12 名、定足数 7 名、本人出席 9 名)

4. 議事の経過及び結果

鳩山会長代行を議長に、議題を逐一審議した。

第 1 号議案 第 75 回理事会議事録の承認について
議事録案を承認した。

第 2 号議案 2022 年度予算案について

鳩山会長代行より 2022 年度予算について以下の説明があった

コロナの見通しが依然として不透明であり、2022 年度の収入額を見積るには 12 月では時期尚早と思われたため、業務執行会議の 12 月の開催は見送った。来年 1 月以降にコロナの状況を見て判断することとしたい。12 月理事会では 2021 年度予算を大筋で踏襲した予算案を提出した。

収入は公認料および競技会主催事業を 2021 年度と同様にコロナ以前の 70% とした。商品販売事業は実績値をもとに 2021 年度予算から大幅に削減した。収入額の総額は 2021 年度予算比で 1,354 万円のマイナスとなる 14,676 万円となった。

経費は、国際交流事業費が 2022 年度には代表派遣を行う世界選手権が未開催の年にあたることおよびアジア競技大会は JCBL の費用負担があまりないことから 2021 年度より減少する。人件費が職員の定年に伴い減少する。経費の総額は 2021 年度予算比で 1,344 万円のマイナスとなる 15,260 万円となった。その結果、トータルで 584 万円の赤字予算となった。

検討の結果、2022 年度予算案を了承した。1 月以降にコロナの状況を見て、見直しを行うこととした。

第 3 号議案 横浜ブリッジフェスティバルおよびパシフィコ横浜の会場使用について
山田競技会事業担当理事より横浜ブリッジフェスティバルおよびパシフィコ

横浜の会場使用について以下の提案があった。

2022年度以降の横浜ブリッジフェスティバルの開催については、1回あたりの開催の実質の費用負担が約2,000万円程度になること、およびコロナの影響が深刻な現状を鑑み無期限の中止としたい。将来、状況が落ち着いたのちに、開催費用を格段に削減した形での開催を検討したい。

パシフィコ横浜の会場使用については、9月にパシフィコ横浜より会場費の値上げが通知されていることから、2023年2月以降の横浜スイスチームおよび横浜オープンペアはパシフィコ横浜を会場として使用しない方向でパシフィコ横浜と相談を行いたい。現在パシフィコ横浜が保管しているブリッジテーブル約120台については、相談の結果次第で引き上げを求められることは想定内の範囲内とする。

検討の結果、これを了承した。

第4号議案 各委員会及び事業部報告

1. 企画委員会

吉田企画委員長より11月10日および12月8日の企画委員会について以下の報告があった。

センター・クラブを訪れた人が後日に陽性となったケースは7月を最後に発生していないことを確認した。テーブル数については依然として厳しく、セクショナルはコロナ以前の70~80%まで回復しているものの、ウィークリー、IMP、講習会は50%以下という状況が続いている。

12月1日に開催された首都圏センター主催リジョナルの服部杯の東京フライトBの五反田会場において、昨年のハンドデータを誤って使用して1日プレイしてしまった件が報告された。ブリッジの規則により、五反田会場の競技会は不成立となり競技結果は無効となった。

2. センター協議委員会

浅越センター協議委員長より12月14日のセンター協議委員会について以下の報告があった。

11月16日の首都圏センター会議で「セクショナルの1日のチーム戦の最低ボード数48ボードの緩和」、「JTOS、受付管理などのセンターが使用している競技会関係ソフトの開発や維持管理」、「IMP復活キャンペーンへの支援」の3点をJCBLに要望することが決まった。

セクショナルの1日のチーム戦の最低ボード数48ボードについては、10チームの総当たりを行った場合に6ボード×9ラウンドの54ボードを行う必要があることが背景となっていた。12月1日の競技委員会で、10チーム総当たりの1日のチーム戦に限り5ボード×9ラウンドの45ボードを認めることとし、12月理事会にその旨諮ることをセンター側に説明し

了承を得ている。

残りの 2 点の JCBL への要望については、1 月のセンター協議委員会でセンター側から提出される見込みである。

3. 代表選抜委員会

橋本代表選抜委員長より、2021 年度 APBF 選手権がオンラインで 12 月に開催されること、2022 年アジアカップの代表募集を現在行っていること、および 2022 年アジア競技大会の準備状況について報告があった

4. 競技委員会

寺本競技委員長より 12 月 1 日に開催された第 274 回競技委員会について報告があった。

寺本競技委員長より、2 セッションのチーム戦の最低ボード数を 10 チーム総当たりのムーブメントに限り 5 ボード 9 ラウンドの 45 ボードを認めるとする競技会運営規則の変更案が提出された。

検討の結果これを承認した。

5. 普及事業部

齋藤普及事業担当理事より以下の報告があった。

秋の首都圏ブリッジセンターの体験教室の参加者は合計 58 名、そのうちの朝日新聞の広告による参加者は約 3 分の 1 であった。

6. 競技会事業部

山田競技会事業担当理事より競技会事業部活動状況および資格獲得者の報告があった。

7. 法人・管理部

寺本法人・管理部担当理事より 11 月末時点の予算決算対照表、比較財務諸表、月次収支実績、およびクラブ勘定の残高について以下の報告があった。

月次収支については、10 月は約 60 万円の赤字、11 月は約 300 万円の黒字であった。セクショナルの公認料は少しずつ回復しておりコロナ以前の約 80%にまで戻っている。11 月は IMP の公認料が含まれている。助成金を含めた収支累計は約 3,300 万円の黒字である。決算は 1,000 万円程度の黒字を見込んでいる。クラブ勘定の残高については問題がない。

寺本法人・管理部担当理事より記録保管制度の報告件数、報告内容の種類、および対応状況が報告された。

第 5 号議案 その他の議案

1. 次回理事会開催について

次回理事会は 2022 年 1 月 28 日（金）18 時 30 分よりオンラインにより開催する

2021年12月17日

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

第76回理事会

代表理事 鳩山 勝郎

監 事 関口 修

監 事 正村 祐一

議事録作成者 寺本直志